

思い出の、あの駅、あの列車 のと鉄道能登線、廃駅巡りの旅

始発ちゃん

Text and illustrations by Shihatsu-chan



波並駅

※のと鉄道能登線は、石川県鳳珠郡穴水町の穴水駅と石川県珠洲市の蛸島駅を結んでいた鉄道路線。開業以来30年の間は日本国有鉄道の経営下にあったが、その後、紆余曲折を経て1987年に第三セクター「のと鉄道」が設立され、1988年に「のと鉄道能登線」として開業した。しかし乗客の減少もあり、2005年4月1日付で廃止に至った。なお、穴水駅と石川県七尾市の七尾駅を結ぶ七尾線は、当初、七尾駅・輪島駅間で運行されたが、2001年に乗客減少の著しい穴水駅・輪島駅間が廃止された。

初めて奥能登を訪れた時、国道249号線沿いに不思議な景色を見つけました。ポツンと建っている小さな待合室、草の生い茂ったホーム。そこは営業が廃止された「のと鉄道能登線中居駅」でした。近くに行ってみると、待合室の中には3時20分で止まった時計や、表彰状が見えました。「この時計がまだ動いていた頃、中居駅にとって“すばらしいお祝い”があったんだなあ」。そう思うと誰かの思い出の中を生きているような懐かしい気持ちになりました。

中居駅との出会いをきっかけに、能登線の廃駅を巡りました。バスの待合室になった七見駅、現代アート作品が見られる蛸島駅…、能登線には個性豊かな多くの廃駅がありましたが、特に心に残る廃駅は「波並駅」

でした。
波並駅の良さは何と言っても、ホーム跡から見られる美しい景色です。空の向こうの雲が水色や桃色にキラキラ煌めいていたり、水平線の彼方には小さな舟が何艘も見えました。そうして時の流れに身をまかせてゆっくりと時間を過ごすと、まるで風のように心が穏やかになるのを感じました。待合室の隣には大きな桜の木もありました。春の日にはより一層華やぐことでしょう。
波並駅はホームや待合室だけでなく、駅名標もきれいに残されておりました。地元の方が大切に、丁寧に手入れされているのが分かります。私も絵描きとして1枚でも多くの絵を描いて、大切な場所を守りたいと強く思いました。



中居駅

*始発ちゃんプロフィール

全国を旅しながら、鉄道イラストを描いています。懐かしい風景や、心温まる駅が好きです。始発ちゃんの名前は「始発電車」に由来します。高校時代に始発電車で通学していたことをきっかけに、「始発に乗ってどこまでも、いろんな場所を旅したい」という思いからこの名前を付けています。